

ExoEarth と英 GlycanAge 社が戦略的提携

糖鎖バイオマーカー × EV 科学 × 継続測定で、
ExoEarth が構想する個別最適化型ロンジェビティ・プラットフォームの構築へ



ExoEarth 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：西平 隆、以下「ExoEarth」）は、糖鎖（グリカン）を用いた生物学的年齢測定を世界で展開する英国 GlycanAge Ltd.（以下「グリカンエイジ社」）と、戦略的提携を開始しました。本提携は、両社が締結した MOU（基本合意書）に基づくものです。

両社は、日本における GlycanAge 測定の利用機会拡大と、糖鎖バイオマーカーと EV（細胞外小胞）研究をつなぐ縦断的な共同研究を進めます。

ExoEarth は本提携を起点として、生物学的年齢測定、糖鎖バイオマーカー、EV 研究、継続的な健康・生活データ、AI を組み合わせた、個別最適化型ロンジェビティ・プラットフォームの構築を目指します。

本提携は 2026 年 8 月 20 日、英国ロンドン発で国際発表されました。
[国際発表（EIN Presswire）](#)

1. 戦略的提携の概要

日本における GlycanAge 測定の利用機会拡大

両社は、糖鎖に基づく生物学的年齢測定を、日本の研究・ヘルスケア・ロンジェビティ領域へ段階的に届けることを目指します。

測定結果を単発の数値として扱うのではなく、自身の状態を理解し、日々の選択につなげ、その変化を継続的に確かめるための指標として活用する考え方を共有しています。

糖鎖バイオマーカーと EV 研究をつなぐ共同研究

グリカンエイジ社が解析する、免疫系の健康状態に関連する糖鎖バイオマーカーと、ExoEarth が取り組む EV 研究を組み合わせ、加齢に伴う生体変化をより深く理解するための縦断的な共同研究を進めます。具体的な研究設計は、必要な科学的・医学的・倫理的・規制上の検討を経て決定します。

2. ロンジェビティサイクルの「測る」を支える GlycanAge 測定

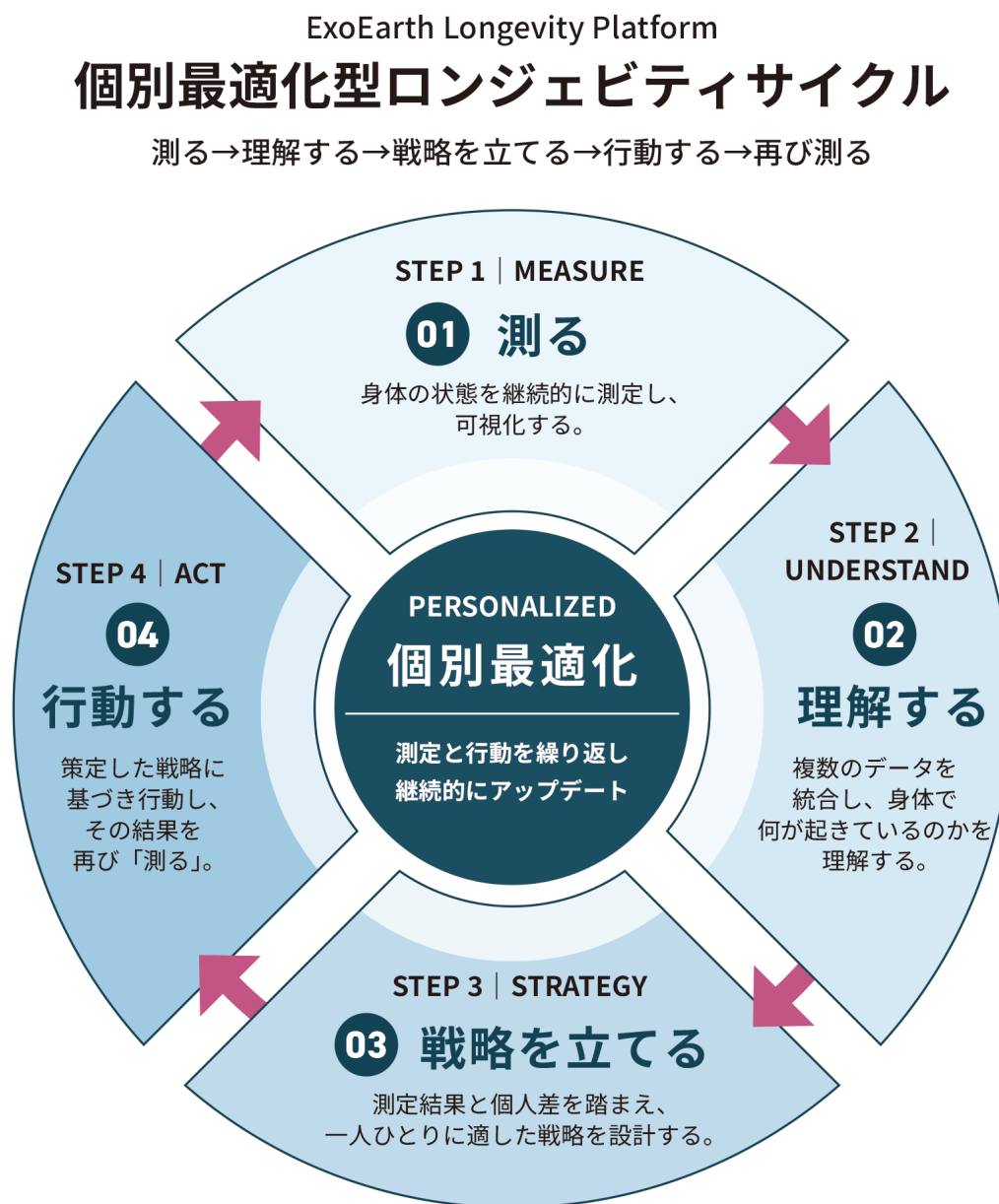
グリカンエイジ社が提供する GlycanAge 測定は、血液中の IgG（免疫グロブリン G）に結合した糖鎖を解析する測定です。糖鎖のパターンは、加齢、免疫状態、炎症、生活習慣などに関連して変化することが知られています。

GlycanAge 測定では、このパターンを解析し、Inflammaging（炎症性老化）や免疫系の健康状態に関連する特徴を評価します。

ExoEarth は、GlycanAge 測定を、構想するロンジェビティサイクルの起点となる「MEASURE＝測る」に位置づけています。測定結果を身体の状態を理解するための指標として活用し、継続的な測定を通じて変化を確かめながら、一人ひとりに応じた戦略や行動につなげることを目指します。

3. ExoEarth が構想する個別最適化型ロンジェビティサイクル

ExoEarth は、一人ひとりの身体データとその変化に応じて戦略を継続的に更新する「個別最適化」を重視し、以下の 4 ステップを循環させるロンジェビティサイクルを構想しています。



このサイクルを継続的に回すことで、一度きりの施策ではなく、身体の変化に応じて更新されるロンジェビティの実現を目指します。

4. 糖鎖バイオマーカーと EV 研究による縦断的共同研究

両社は、MOU に基づく共同研究として、GlycanAge 測定を活用し、EXOCURE®プログラムに関連する生物学的年齢および免疫関連指標が、時間の経過とともにどのように変化するかを評価する縦断的な共同研究を進めます。

一時点の数値だけを見るのではなく、継続的な測定によって身体の変化を時間軸で捉え、その変化を科学的に評価することを目指します。研究参加者数、測定間隔、介入条件、研究ガバナンスその他の具体的な研究設計は、必要な科学的・医学的・倫理的・規制上の検討を経て決定します。

5. 継続測定の実践と「2026 GlycanAge Immune Health Champion」



写真：GlycanAge 国際イベントでの受賞記念写真
(2026 年 6 月、クロアチア・ドゥブロヴニク)

ExoEarth 代表取締役の西平 隆は、60 代から GlycanAge による測定を継続してきました。

2026 年 6 月 20 日、クロアチア・ドゥブロヴニクで開催されたグリカンエイジ社の国際イベントにおいて、「2026 GlycanAge Immune Health Champion」に選出されました。

暦年齢	GlycanAge 測定値	Age Gap
66 歳	20 歳	−46 歳

この継続測定の実践は、ExoEarth が構想するロンジェビティサイクルの原点の一つとなっています。

※本受賞は、西平個人の測定結果と継続的な取り組みに関するものであり、特定の製品・サービスの医学的効果や、本提携・共同研究の成果を示すものではありません。

6. 日本を次世代ロンジェビティの実証フィールドへ

ExoEarth は、本提携を起点とする自社の将来構想として、日本を単なる市場ではなく、次世代ロンジェビティを実装し、継続的にデータを蓄積し、その可能性を検証する重要なフィールドと位置づけています。今後、継続測定、EV 研究、健康・生活データの統合、AI によるデータ理解、個別最適化された戦略策定、医療機関・研究機関との連携などを進めます。

日本で得られる知見を蓄積し、グリカンエイジ社との国際的な連携も活用しながら、個別最適化型ロンジェビティ・プラットフォームを日本から世界へ展開することを目指します。

7. 両社代表コメント

Nikolina Lauc 氏（GlycanAge Ltd. CEO）

「日本は、世界でも最も先進的なロンジェビティ市場の一つです。ExoEarth は、日本で GlycanAge をより多くの人々に届けるうえでも、新たな科学をともに探究するうえでも、理想的なパートナーです。私たちの糖鎖バイオマーカーと、ExoEarth の EV 研究に関する専門的知見を組み合わせることで、人がどのように年齢を重ねるのかを理解するための、新たな可能性が開かれると期待しています。」

西平 隆（ExoEarth 株式会社 代表取締役）

「今回のグリカンエイジ社との提携は、単に生物学的年齢測定を日本で広げるためだけのものではありません。私自身、60 代から GlycanAge による測定を継続してきたことで、自分の身体は感覚だけではなく、データによって理解できるということを強く感じてきました。GlycanAge 測定で解析する糖鎖バイオマーカー、ExoEarth が研究する EV、そしてさまざまな健康データをつなぎながら、世界有数の長寿国である日本を実証フィールドとして、個別最適化型ロンジェビティ・プラットフォームを構築し、世界へ展開していきます。」

8. 国際発表後の海外掲載・データベース収載

2026 年 8 月 20 日の国際発表後、本提携は、EV、ロンジェビティ、Health Tech、Biotechnology など複数の専門領域を扱う海外メディア・専門情報サイトで掲載・紹介されています。

主な掲載・収載先は以下のとおりです。

- **EIN Presswire**：本提携の国際発表を配信
- **Exosome RNA**：EV 領域の専門情報サイトに掲載
- **Longevity Now**：韓国のロンジェビティ専門メディアが、要約と Editor's Insight を掲載
- **IT Business Today**：Health Tech／Biotechnology の観点から、本提携と日本の Longevity Tech 市場への影響可能性を解説
- **CB Insights**：企業・市場情報データベース「Latest GlycanAge News」に収載

グリカンエイジ社について

グリカンエイジ社（GlycanAge Ltd.）は、30 年以上にわたる糖鎖科学研究と 350 報を超える査読付き科学論文を背景とする英国のバイオテック企業です。IgG 糖鎖を解析し、Inflammaging（炎症性老化）や免疫系の健康状態に関連する特徴を評価する GlycanAge 測定を世界で展開しています。

Web サイト：<https://glycanage.com/>

ExoEarth 株式会社について

ExoEarth 株式会社は、EV 科学、生体データ、AI、ロンジェビティ研究を横断し、個別最適化されたロンジェビティの社会実装を目指す日本のライフサイエンス企業です。

会社名：ExoEarth 株式会社 ｜ 代表者：代表取締役 西平 隆

所在地：〒105-5117 東京都港区浜松町 2 丁目 4-1 世界貿易センタービルディング南館 17 階

Web サイト：<https://exoearth.co.jp/>

本件に関するお問い合わせ

ExoEarth 株式会社（広報・本提携・共同研究・事業提携）

お問い合わせフォーム：<https://exoearth.co.jp/contact/>

注意事項

※GlycanAge 測定は、生物学的年齢や免疫・炎症に関連するバイオマーカーを評価するための測定であり、特定の疾患の診断、治療または予防を目的とするものではありません。

※EXOCURE®プログラムおよび EV に関する本リリースの記載は、特定の疾患に対する有効性、安全性、治療効果、若返り効果等を保証または示唆するものではありません。

※共同研究の具体的な内容は、必要な科学的・医学的・倫理的・規制上の検討を経て決定します。